

科 目 名		必修・選択	単位数	類型
家庭基礎		必修	2	共通
教科書 副教材等	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍） 群馬県版 家庭科学習ノート			

1 学習目標

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を、実践的・体験的な学習活動を通して身に付けることを目標とします。

2 学習概要

（1）人の一生と家族・家庭および福祉

家庭科の学習を通して、人の一生について、生涯発達の視点で捉え、様々な生き方を理解するとともに、自らの生き方を見つめ、将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解し、自分の目指すライフスタイルを実現するために、生涯を見通した生活を設計する。

（2）衣食住の生活の自立と設計

自立した生活を営むために必要なライフステージに応じた衣食住の生活について、身に付けた知識や技能を実生活で活用できるようにするために、実験・実習も取り入れて学習する。

（3）持続可能な消費生活・環境

持続可能な社会を見通して、自立した生活を営むために必要な生活における経済の計画や消費生活及び環境との関わり等に関する理解を深めるため、家族・家庭や福祉、衣食住等の内容と相互に関連付けながら、環境に配慮して持続可能な社会を目指したライフスタイルと生涯を見通した生活設計について考察する。

3 学習方法

- （1）身に付けた知識がどのように実生活に関わり合っていくのかを、自分の家庭や地域の事柄を観察しながら学習し、実生活の改善・向上に生かす
- （2）生活を科学する目や、課題を見つける姿勢を持ち、積極的に授業に参加する
- （3）ワークシート、実験・実習後の考察・感想レポート等の提出は、期限を守る
- （4）ワークシートやプリント等は、各自できちんと保管する

4 評価について

（1）評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査（期末考査）……………①、②
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………①、②、③

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

（2）評価規準

	知識・技能（①）	思考・判断・表現（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめごと）	考查等
一 学 期	・オリエンテーション 学校家庭クラブとホームプロジェクト SDG s と家庭科について考える。 第1章生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・授業説明、SDG s と家庭科の関係について理解している。 ・自立した生活を営むために、ライフステージの特徴と課題、生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	期末テスト ホームプロジェクト①
	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	・さまざまな生き方、家族・家庭と法律、仕事と 家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	
	第3章子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	・子どもが持っている能力や心身の発達、子どもの生活習慣や衣食住、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験を通して子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	
	第4章超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社 会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社 会 ホームプロジェクト①	・超高齢社会の背景、加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方について理解する。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探求する方法や問題解決の能力を身に付ける。	
二 学 期	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	・家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 国等の支援体制について理解する。 ・私たちが共に豊かに暮らせるためにはどうしたらよいか考えて実践しようとする。	期末テスト
	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	・食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性、各ライフステージの食生活の特徴や課題などを理解する。 ・食の安全を確保するための仕組み、調理の知識と技術を身につける。 ・日本の食文化の特徴・世界の食文化に関心を持ち、広い視野で食生活について考える。	
	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	・住居の機能やライフステージごとの住要求、環境性能、防災、日照、換気などについて理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件、環境に配慮した住生活、また、世界や日本のさまざまな住文化について理解する。	
	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	

三 学 期	第 9 章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用、さまざまな販売方法や支払い方法、契約があること、また契約の重要性について、消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう消費者保護制度について理解し、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	ホームプロジェクト②
	第 7 章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	・被服の機能や特徴、用途に合った着装を実践できる力を身に付けるため被服の役割、また、被服の材料や性能、加工、世界の民族衣装についてについて理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。	
	第 11 章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする	・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。	学年末テスト